

風土の旅

田川は昔から水に恵まれた所。いにしえへのロマンをかき立てる伝説に彩られた池や泉、修験道者や参拝者の喉を潤してきたご神水があり、その地その地の象徴的存在にもなっています。

参道をのぼり詰めていただく
ご神水のおいしいこと。

道、峠、池、水源、どこまでも清らかに。



C-2 泌泉(たぎり) (糸田町)

神功皇后にまつわる伝説も残る泌泉。関の山一帯に降った雨が、地下の石灰岩水脈をめぐりぬけて湧出しており、古くから生活水や灌漑用水として1300年以上もの間、この地を潤してきました。「いとよき田」が糸田になったとして、糸田の地名の起りともいわれています。



C-3 大浦池(田川市)

四代將軍家綱の時代。干ばつで苦しんだ弓削田の人達は、長い年月をかけてため池を作りました。しかし、どうしたことが池には一向に水がたまりません。それを龍神のたたりと考えた村人は、人柱を立てることにしました。が、自ら名乗り出るものなどいません。その時、庄屋の養女となっていたお浦が「恩返しに…」と名乗りでて、静かに池に身を沈めました。その翌朝、池には水が満々とたまっていました。お浦への感謝の気持ちをこめて「大浦池」と名付けたそうです。



B-3 香春岳三ノ岳ハイキングコース(香春町)

五徳峠から三の岳を目指すコースには、経験者向けコースとファミリーコースがあります。急斜面の岩場を登るため、「岩のぼり」ともいわれる経験者向けコースは、鉱物採集や石灰岩地特有の植物観賞も楽しめます。北に福智山系、南に大坂山、英彦山を望み、天気の良い日には南東に由布岳も望めます。



B-4 鏡ヶ池(香春町)

かつて、神功皇后が自分の姿を映したことから、鏡ヶ池と呼ばれるようになったといわれています。今でも清らかな水が湧いています。「鏡乃池」という標柱には、「豊国の鏡の池の鏡石かくれもせじならわれもせじ」という古歌が刻まれています。

C-3 鳴かすヶ池(田川市)

弘仁年間(810~824)のこと。成道寺の本堂で最澄が参禅修行していた際、本堂左側の池でカエルがやかましく鳴き、修行を妨げました。そこで池のカエルをしかったところ、カエルは全く鳴かなくなりました。それから、この池は「鳴かすヶ池」と呼ばれるようになったといわれています。



F-4、F-5 英彦山のご神水(添田町)

霊山として知られる英彦山には、樹齢何百年の樹木たちが育んだ清らかな水が、今もコンコンと湧き出ています。その一つが、英彦山神宮の銅鳥居(国指定重要文化財)から約30分ほどの奉幣殿の入り口にある、龍神の口から流れ出るご神水。もう一つが、高住神社の参道の入り口にある獅子の口のご神水。清涼感もたっぷりに、参拝者の喉と心を潤しています。

池には、ちょっと
ユーモラスな謂われが。

